

## #2 症例で探る！ 成田氏のラーニングカーブ

### 基礎床の床縁を調整し、義歯を再製作した症例

#### 症例の概要

1926年生まれ。88歳の女性で、祖父の代から来院されている。2008年に右下犬歯動揺と疼痛のため、再来院。右下犬歯抜歯後、上顎第二大臼歯-第二小白歯にパーシャルデンチャー、下顎第一小白歯残根上に総義歯を製作。2014年6月に上顎パーシャルデンチャーのクラスプが破折し、上下顎とも義歯がゆるく落ちやすくなってきたため、新製を希望され再来院となった。

旧義歯は、①正中の不一致、②咬合平面のずれ、③咬耗により人工歯が平らになってしまっていて面接触になっていることから、咬合高径の低下が認められる、④下顎舌側床縁が短く、義歯が安定せず浮き上がってくる状態、といった問題があった。特に上顎義歯床縁部が全体的に短いため、大きく口を開けると簡単に落ちてきてしまっていた。

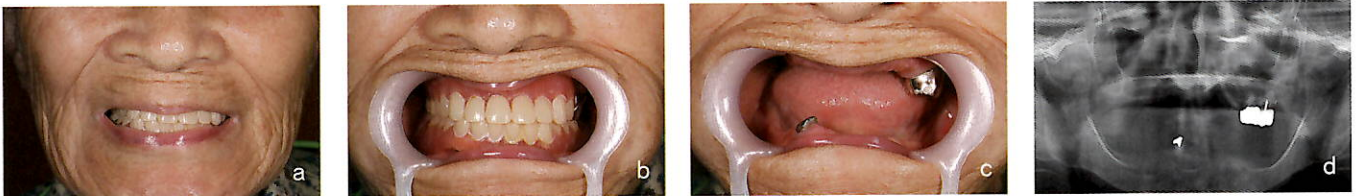


図1 a~d 旧義歯装着時(a、b)と装着していない状態(c)の口腔内写真およびパノラマエックス線写真(d)。正中の不一致。咬合平面のずれ、咬合高径の低位、右下第一小白歯の形態不良による食渣の停滞が認められた。

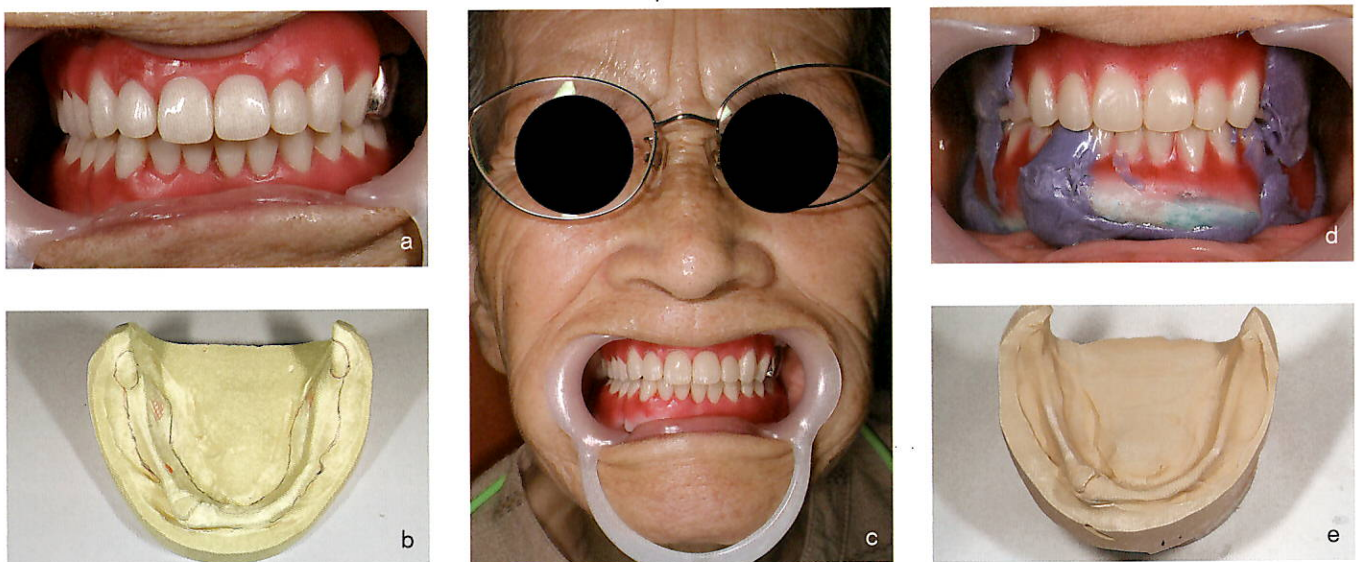


図2 a~e 人工歯排列試適時に基礎床辺縁を調整し、吸着安定させる(a~c)。調整するのは、大臼歯相当部頬舌側床縁および下顎根面板部周囲の床縁である。その後、咬座印象を行って(d)、精密な作業用模型を製作した(e)。



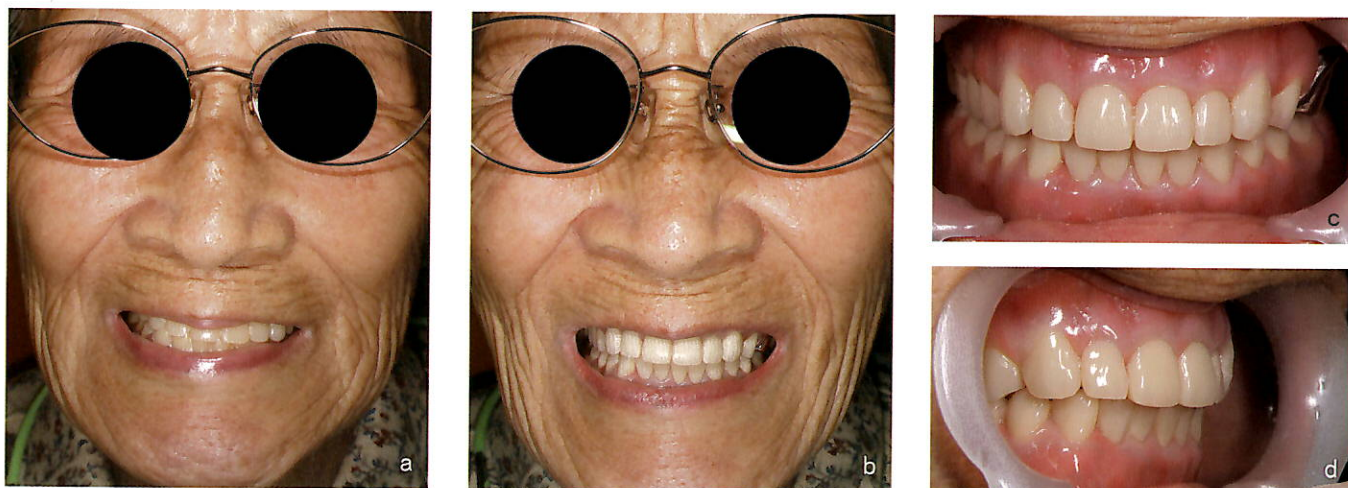


図3 a~d 旧義歯装着時(a)と新製義歯装着時(b~d)を比較すると、正中や咬合平面、微笑時の歯牙露出面積、咬合高径等が改善され、適切な咬合接触点を付与することができた。下顎の大白歯相当部頬舌側床縁のみ調整を行った。

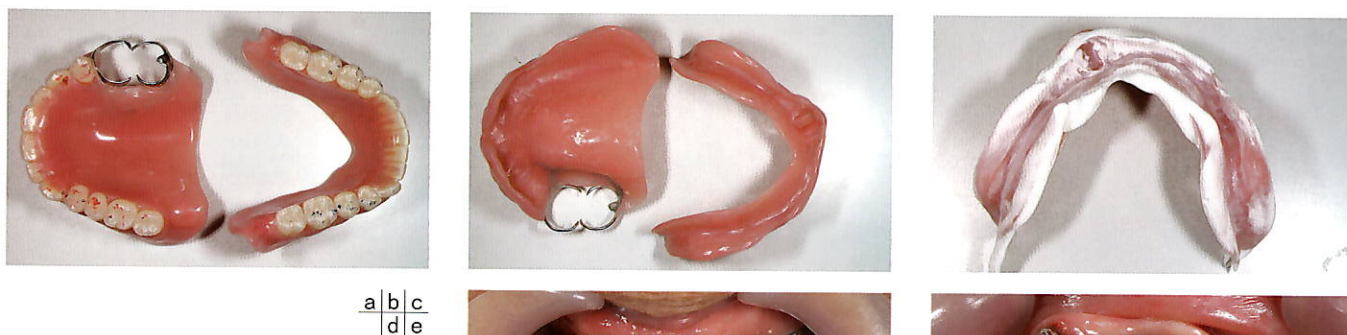


図4 a~e 装着義歯(a~c)と完成義歯装着1ヵ月後の口腔内写真(d, e)。適合状態も良く、特に痛みや違和感もなく安定している。

## この症例を通して学んだこと

### 自分の歯のように良く噛める義歯を提供していきたい

本症例では、患者個々に合わせた床縁形態の調整の難しさを実感した。咬合の与え方としては、基本的な1歯対2歯の両側性平衡咬合を与えるようにして、安定した咬合接触を付与した。患者からも自分の歯のようにしっかりとよく噛めるとのお言葉をいただいた。ただ、義歯がよく噛める分、粘膜に対する過重負担が発生し、内面の微調整のため、装着後2度の来院をしてもらうこ

ととなった。しかし、日ごろ参加している義歯の研修会や、書籍等で習得した総義歯治療の基本的な診査を行い、患者満足度の高い再治療を行うことができた。

今後も学びを続け、痛みなく、よく噛める、まるで自分の歯のような総義歯を、歯科技工士と協力して製作し、地元大宮にて地域に密着した診療をしていきたいと思う。